
尼崎市立歴史博物館第4回特別展
「博多～尼崎～京都、中世の港のにぎわい」を開催します

1 概 要

尼崎市立歴史博物館では、尼崎の歴史や文化財に関わるテーマで、他都市の博物館や社寺等から借用した貴重な文化財・歴史資料も交えた特別展を当館3階企画展示室・展示学習室で開催します。

10月1日(火)から開催する第4回特別展「博多～尼崎～京都、中世の港のにぎわい」では、大物町にある大物遺跡出土資料を中心に今から約800年前の中世尼崎と日宋貿易・国内流通について紹介します。会期中、記念講演会や講座、ギャラリートークなどの関連事業を開催します。

入館料、受講料は無料です。

2 「博多～尼崎～京都、中世の港のにぎわい」**(1) 概 要**

中世の尼崎は、全国から集まる物資を京都などの大消費地に送る中継地として栄えていました。しかし、尼崎に大きな流通拠点があったことは、あまり知られていません。

尼崎では奈良時代以降、海岸線の南進に伴い、神崎川河口部に新地(長洲・杭瀬・大物)が形成され、淀川水系で都とつながった諸港湾が誕生しました。なかでも、平安時代後期に港湾として発達した大物は平氏政権全盛期以降、中国(宋)との貿易品や国内の年貢などが行き交う物資流通の一大中継地であったと考えられています。

今回の特別展では大物遺跡から出土した貿易陶磁器や瀬戸内海沿岸地域を中心とした全国各地の土器等、さまざまな資料とともに、同じく物資の集散地であった九州の博多や京都の遺跡から出土した貿易磁器等を交えて、中国(宋)、博多、尼崎、京都を結ぶ日宋貿易や、瀬戸内海を中心とした国内流通を支えた港と尼崎のつながりについて振り返ります。

あわせて、中世の尼崎が現在と同じく交通の要衝として発展を遂げ、人々が行き交う活気あふれる歴史を持っていたことや、尼崎が豊富な文化財が現存する歴史豊かなまちであることを広く紹介します。

(2) 会 期

10月1日(火)～11月30日(土)

休 館 日：毎週月曜日(ただし祝日の場合は開館し、直後の平日が休館)

開館時間：午前9時～午後5時(入館は午後4時半まで)

(3) 会 場

尼崎市立歴史博物館 3階 企画展示室・展示学習室

(4) 主な展示資料

- ・国芳 名高百勇伝 平清盛…当館蔵
- ・武将肖像画模本〈清盛入道浄海〉…当館蔵
- ・宋船模型…福岡市博物館
- ・白磁四耳壺…大物遺跡・博多遺跡器群・二葉町遺跡・平安京跡
- ・黄釉鉄絵盤…大物遺跡・博多遺跡器群・平安京跡
- ・青白磁合子…大物遺跡・博多遺跡器群・祇園遺跡・平安京跡

- ・経 石…大物遺跡・鳥羽離宮跡
- ・三材構造船…二葉町遺跡
- ・温 石…大物遺跡・平安京跡

(5) 出品点数

約 380 点

(6) 関連事業

① 記念講演会

- ・日 時 10月13日(日)午後2時～4時
- ・会 場 尼崎市立歴史博物館 3階 講座室
- ・内 容 「富が動く、人が動く 中世流通の考古学」滋賀県立大学教授 佐藤亜聖氏
- ・定 員 80人
- ・申 込 10月5日(土)から電話・FAXで先着順受付、受講無料

② 水曜歴史講座

- (ア)・日 時 10月9日(水)午後2時～4時
- ・会 場 尼崎市立歴史博物館 3階 講座室
- ・内 容 「大物遺跡について」当館学芸員 高梨 政大
- ・定 員 80人(先着順)
- ・申 込 事前申込不要、当日直接会場へ、受講無料
- (イ)・日 時 11月13日(水)午後2時～4時
- ・会 場 尼崎市立歴史博物館 3階 講座室
- ・内 容 「中世の港のにぎわい」当館学芸員 山上 真子
- ・定 員 80人(先着順)
- ・申 込 事前申込不要、当日直接会場へ、受講無料

③ ギャラリートーク

- ・日 時 10月26日(土)、11月10日(日)、11月23日(土・祝)、
各日午後2時～3時
- ・会 場 尼崎市立歴史博物館 3階 企画展示室・展示学習室
- ・内 容 担当学芸員が展示会場で主な展示資料を解説する。
- ・定 員 各回20人(先着順)
- ・申 込 事前申込不要、当日直接会場へ、受講無料

④ ワークショップ ―人形劇―

- ・日 時 11月10日(日)午後3時～4時
- ・会 場 尼崎市立歴史博物館 3階 講座室
- ・内 容 尼崎で生まれた名月姫と兵庫の港にまつわるふしぎな伝説を当館のれきし体験学習ボランティアがペープサート(うちわ型紙人形)で紹介します。
- ・定 員 20人(先着順)
- ・申 込 事前申込不要、当日直接会場へ、受講無料

3 担 当

尼崎市教育委員会 社会教育部 歴史博物館 学芸員 高梨 政大
〒660-0825 尼崎市南城内10番地の2

電 話 06-6489-9801

FAX 06-6489-9800

以 上

尼崎市立歴史博物館

第4回特別展

令和6年(2024)

10.1[火]—
11.30[土]

第4回
特別展

中世の港の
にぎわい

博多
▼
尼崎
▼
京都、

開館時間 午前9時～午後5時

※入館は午後4時30分まで

休館日 月曜日

(ただし祝日の場合は開館し、直後の平日が休館)

会場 尼崎市立歴史博物館 3階
企画展示室・展示学習室

観覧料金 無 料



電車・バス ▶ 「阪神尼崎駅」
南口から南東へ徒歩10分
車 ▶ 玉江橋線開明橋
交差点から東へ約500m
隣接する市立城内駐車場
(有料)をご利用ください



尼崎市立歴史博物館
AMAGASAKI CITY MUSEUM OF HISTORY

〒660-0825 兵庫県尼崎市南城内10番地の2

電話 06-6489-9801

(歴史博物館 文化財担当)

FAX 06-6489-9800



① 白磁四耳壺(尼崎市大物遺跡出土) ② 黄釉鉄絡鉢(尼崎市大物遺跡出土)
③ 磁石(尼崎市大物遺跡出土) ④ 墨書土器「丁綱」(尼崎市大物遺跡出土)
⑤ 国芳 名富百男伝 平清盛(当館蔵)

尼崎市立歴史博物館 第4回特別展



白磁四耳壺(福岡市博多遺跡群出土)



白磁四耳壺(尼崎市大物遺跡出土)



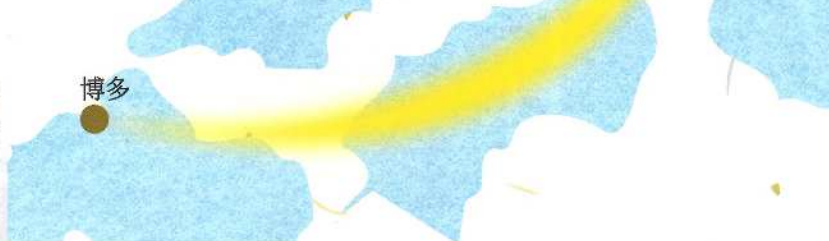
黄釉鉄絵盤(尼崎市大物遺跡出土)



白磁四耳壺(京都市平安京跡出土)



黄釉鉄絵盤(福岡市博多遺跡群出土)



黄釉鉄絵盤(京都市平安京跡出土)

中世の尼崎は、全国から集まる物資を京都などの大消費地に送る中継地として栄えていました。しかし、尼崎に大きな流通拠点があつたことは、あまり知られていません。

尼崎では奈良時代以降、海岸線の南進に伴い、神崎川河口部に新地(長洲・杭瀬・大物)が形成され、淀川水系で都とつながった諸港湾が誕生しました。なかでも、平安時代後期に港湾として発達した大物は平氏政権全盛期以降、中国(宋)との貿易品や国内の年貢などが行き交う物資流通の一大中継地であつたと考えられています。

今回の特別展では、大物遺跡から出土した貿易陶磁器や瀬戸内海沿岸地域を中心とした全国各地の土器等、さまざまな資料とともに、同じく物資の集散地であつた九州の博多や京都の遺跡から出土した貿易陶磁器等を交えて、中国(宋)、博多、尼崎、京都を結ぶ日宋貿易や、瀬戸内海を中心とした国内流通を支えた港と尼崎のつながりについて振り返ります。

あわせて、中世の尼崎が現在と同じく交通の要衝として発展を遂げ、人々が行き交う活気あふれる歴史をもっていたことや、尼崎が豊富な文化財が現存する歴史豊かなまちであることを広く紹介します。



白磁(尼崎市大物遺跡出土)



経石と木簡(尼崎市大物遺跡出土)

記念講演会

「富が動く、人が動く 中世流通の考古学」

日 時: 10月13日(日) 午後2時~午後4時
講 師: 佐藤 亜聖 氏(滋賀県立大学人間文化学部教授)
会 場: 尼崎市立歴史博物館 3階 講座室
申 込: 10月5日(土)から電話・FAXで受付
受講料: 無 料 定 員: 80名(先着順)

ギャラリートーク

日 時: 10月6日(日)、10月26日(土)、11月10日(日)、
11月23日(土・祝) 各日午後2時~午後3時
会 場: 尼崎市立歴史博物館 3階 企画展示室・展示学習室
参加料: 無 料
申 込: 事前申込不要
定 員: 各20名(先着順)

ワークショップ - 人形劇 -

ペープサート「名月姫 - 尼崎で生まれた姫のお話 -」

尼崎で生まれた名月姫と兵庫の港にまつわるふしぎな伝説を、当館のれきし体験学習ボランティアがペープサート(うちわ型紙人形)で紹介します。

日 時: 11月10日(日) 午後3時~午後4時
会 場: 尼崎市立歴史博物館 3階 講座室
参加料: 無 料
申 込: 事前申込不要
定 員: 20名(先着順)

